

城西大学水田記念図書館における利用者教育について

関口 千登世*

【抄録】 城西大学水田記念図書館では以前より、図書館ガイダンスを中心に様々な利用者教育を実施してきた。どうすれば教育・学習支援の強化につながる利用者教育になるのか。また、利用者教育を通して図書館をPRできればと、見直しと改善を行ってきた。本稿では、城西大学水田記念図書館が実施してきた利用者教育の事例と今後の展望も交えて報告する。

【キーワード】 大学図書館, 図書館利用者教育, 図書館ガイダンス, 情報リテラシー教育, 館内ツアー, 教員との連携, 授業との連携, 利用者教育ツール

1. はじめに

図書館における利用者教育は、大学図書館の最大の使命である学習・教育支援に大きくつながるため、図書館業務の中でも重要な位置を占めている。自主的に取り組む姿勢が必要とされる大学での学びに、大学図書館としてどのように関わっていけばよいか、学部や学年、ゼミなどによって異なる研究内容に合わせた支援とは何か、常に考えていかなければならない課題である。

蔵書検索システムやデータベースの進化、電子ブックや電子ジャーナルといった電子図書館としての便利な機能はあっても、授業や自己学習に生かされ効果があつてこそのものである。情報リテラシーの点でもインターネットや携帯電話が生活の中に溶け込んでいる学生たちだからこそ、信頼できる情報を効率よく探せているのかという確認や正しい学習の機会を与えることも、図書館として考えていきたい点である。

2. 城西大学水田記念図書館の概要

城西大学水田記念図書館（以降、当館）は全学部である経済学部、経営学部、現代政策学部、薬学部、理学部と各研究科、短期大学、別科に所属

する約8,000人の学生を対象にサービスを行っており、数学関係の資料のみ一部理学部棟の数学図書室に別置き、それ以外のすべての資料を所蔵している。

2008年4月からは業務全般を業者委託にて開始したが、昨年9月に業者委託開始に向けての利用状況の把握とサービスの見直しを目的とした、全学対象のアンケートリを実施した。図書館への要望で多かったものの1つとして、開館時間の延長と日曜開館の声があつた。また、図書館の利用時間帯の調査では、午後2時から閉館時刻である午後7時までの時間帯をよく利用しているとの回答の多くは薬学部と理学部の学生によるものであり、実験系の授業がある学生にとって、午後7時の閉館では早すぎるのがわかつた。これにより、2007年度まで行っていた館内整理に伴う休館と日曜休館を廃止し、授業休業期間中の休館日数も見直したことにより、2008年度の開館予定日数は339日（2007年度264日）となっている。開館時間帯も月曜日から金曜日は午前9時から午後9時（2007年度まで午後7時）、土曜日は午前9時から午後7時（2007年度まで午後4時半）、日曜日は午前9時から午後5時（2007年度までは休館）と変更し、5時限目の授業後もゆつくりと利用できるようになった。

図書館システムは、2004年度からNECのE-Cats Libraryを採用している。ホームページにはOPAC、各種データベースポータル、資料の

* Chitose SEKIGUCHI
城西大学水田記念図書館
〒350-0295 坂戸市けやき台1-1
E-mail: cseki@josai.ac.jp

リクエストや ILL (Inter Library Loan) などの申し込みができるリクエストサービスを設けている。また、2007 年度からは EBSCO 社の「Link-Source」を導入し、資料入手の支援を強化した。利用相談は、レファレンスカウンターと電子メールで受け付けており、相互利用サービスは国立情報学研究所の図書館間相互貸借システムや埼玉県大学・短期大学図書館協議会に参加のほか、近隣公共図書館 6 機関と提携し、館種を超えた資料の利用が可能となっている。

3. 利用者教育の現状

当館で実施している利用者教育は、入学後に行われる新入生オリエンテーション、ゼミ・授業単位での図書館ガイダンス、データベース講習会など各種実施している。

利用者教育の中心となっている図書館ガイダンスは毎年行ってきたが、2005 年度までは正式な広報をしていなかったため、毎年少数の同じ教員からの申し込みがほとんどであった。そのためか図書館に来て OPAC を知らないために本の探し方がわからない学生や、3・4 年生になって初めて本を探す学生が利用相談に来ることも少なくない状態であった。毎年新入生向けのオリエンテーションでは、新入生全員に対して資料の貸出・返却の方法や蔵書検索、サービスについて一通りの説明はしているが、入学直後に受ける連日のオリエンテーションの 1 つという認識と、図書館とは離れた大教室で行っていることもあり、図書館へ足を踏み入れるきっかけにはなるがそれ以上を理解するのは無理であると思われる。また、ILL の依頼の中には当館で利用できる文献も見受けられ、利用者教育に真剣に取り組まなければならない必要性が出てきた。それとともに、ガイダンスの内容も学内の資料検索を基礎に学外資料の検索や各種データベースの利用方法、レポートや卒論作成の支援にもつながるような広がりを持ちたいということになった。そこで 2006 年度からは全教員宛にガイダンス募集の文書を配布し、閲覧係が中心となり要望に応じたガイダンスを実施することとした。

3.1. ゼミ単位での検索実習ガイダンス

ゼミ時間の 1 コマを利用して行う図書館企画のガイダンスは、主に 4 月から 6 月に申し込みが集中する。1 年生のガイダンスでは、大学生活が始まって間もないということがあるので、最初に高校とは違う大学での学び方について話すようにしている。授業の内容も研究発表やレポート作成のための資料調査など、自主的に学習することが必要であり、評価の点でも試験結果だけではないこと、そのためにも大学図書館を上手に利用する必要があることを伝えている。1 年生の前期が始まって間もない時期のため、なぜ図書館員の話聞くのかがわからないままの参加では学習意欲も湧かないので、今日のガイダンスでは何を何のために学ぶのかという目的をはっきり伝えるようにしている。また、大学図書館と公共図書館の違いや両者をうまく使い分けること、卒業するまでの期間、図書館の本や雑誌だけではなく図書館員もおおいに利用してほしいことも付け加えている。

ガイダンスの内容や受講生の学部・学年などに合わせて、DVD『情報の達人』²⁾の視聴も取り入れている。この DVD は大学での学習に役立つ図書館の機能や、NDC の説明などが映像によりわかりやすく解説されており、内容も 10 項目に分かれて構成されているので、学習段階に合わせて選択している。

館内ツアーは各種資料や配架場所等を実際に案内しながら説明できるので、新入生には大学図書館ならではの資料を紹介できるよい機会である。



ガイダンスの検索実習の様子

統計、年鑑類、新聞、雑誌などの資料の種別による特徴や役立つ利用方法なども付け加えて説明している。しかし最近では検索実習に重点を置きたいので、参加した学生に関連する書架で請求記号の意味や図書の並び方を説明する程度に留めている。ただし、薬学部の薬学科生・薬科学科生(4年制)は2コマを利用するため前述の館内ツアーを実施している。

ガイダンスのメインである検索実習では全員に演習問題を出している。この演習問題は図書館で作成しているが、2005年度までは「〇〇について書かれている本を検索し、タイトル・著者・請求記号を記入せよ」という検索結果を書き出すという内容であった。しかしこれでは検索をただで終わってしまい、その後の利用につながるのではないかとということで、2006年度

からは参加者自身でテーマやキーワードを決めて検索し、実際に資料を見つけ出してくるという内容に変更した。その後少しずつ内容を見直し、2008年度前期では図1の内容で実施した。実習でも図書館担当者が操作する画面をスクリーンに映しながら、検索結果の絞り込み方法や書誌項目のリンク機能、所蔵情報の配架場所や請求記号の説明など資料探しに役立つ手順も合わせて説明している。

目的の図書を探し出した後は、雑誌記事を検索する演習問題とした。学術雑誌の信頼性や速報性について触れ、これから課題として出されるレポートや研究発表の材料として利用するよう勧めている。演習問題では、NDL-OPACの雑誌記事索引を使い、図書と同じテーマで雑誌記事を探すようにした。当然ヒット数が多いので、学生が興味

図書館ガイダンス演習問題

受講年月日 年 月 日 限 所属ゼミ名 _____
 学籍番号 _____ 氏名 _____

* 演習問題の記入が終了したら、図書館員へ提出してください。
 時間内に終わらない人は1週間以内に、カウンターへ提出してください。

この演習は、授業や自主学習で必要とする本や雑誌の記事を、上手に見つけ出すことを目的としています。今日は実際にレポート等を作成する際に必要な材料を集めるつもりで、取り組んでみてください。これからの大学での学習に必ず役に立ちます。

1. まずは調べるテーマ(主題)を決めましょう。(例: ボランティアについて)

テーマ(主題): _____

2. テーマが決まったら、図書館のホームページの「城西大学蔵書検索OPAC(オパック)」に、関連するキーワードを入力して検索します。検索結果を下記に記入し、実際に本棚へ行って目的の本を探してみましょう。 * 図書の場所は検索結果の配架場所と請求記号でわかります。

① 検索時の入力キーワード:

② 書名:

③ 著者名:

④ 出版者、出版年:

⑤ 配架場所、請求記号:

⑥ 本文最初の一行:

3. 次に同じテーマで雑誌の論文や記事を見つけてみましょう。1冊の雑誌は複数の記事(論文)によって成り立っています。雑誌に掲載されている論文や記事は速報性や信頼性が高いため、レポート作成や研究材料に適しています。雑誌記事は、図書館ホームページ → 国内データベース → NDL-OPAC(国立国会図書館) → 雑誌記事索引の検索で探せます。論題にキーワードを入れて検索し、検索結果から1つ選び次の項目を記入してみましょう。

① 検索キーワード:

② 論題:

③ 論題著者:

④ 雑誌名:

⑤ ISSN(国際標準連続刊行物番号):

⑥ 出版者・編者・巻号・年月日、ページ:

4. 3で見つけ出した雑誌記事を見るには、掲載している雑誌が城西大学図書館にあるかを検索します。再度、城西大学蔵書検索OPACを使って検索してみましょう。

検索のキーワードは、雑誌の論題ではなく雑誌名で探します。画面左側の検索対象の雑誌をチェックすると雑誌だけを探せます。

図書館にある・・・雑誌の配架場所を記入しましょう。新着とバックナンバーでは配架場所が異なるので注意しましょう。Journalのマークがあったら電子ジャーナルですのでクリックしてみましょう。直接雑誌記事を見ることができます。

雑誌の配架場所: _____

図書館にない・・・あきらめないでください。他の大学にあるかを探して、記事(論文)のコピーを取り寄せたり(有料)、訪問(紹介状が必要)することができます。どこの図書館にあるかを調べるにはOPAC画面左側のNACSIS Webcatをチェックして検索します。NACSIS Webcatは全国の大学図書館が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベースです。所蔵館を記入(多い場合は3館選んで記入):

5. ここからは図書館のホームページの利用案内を見て下線部分を記入しましょう。

① 著作権について

著作権法とは、_____の保護を目的としたものです。

出版物の複写は原則的に禁止されており、出版物を複写利用する場合は著作権者の承諾が必要とされています。

ではなぜ、図書館では著作権者の承諾なくコピーサービスができるのか、

これは_____条が適用されるからです。この条文は、図書や記録などの資料を公共に利用してもらう図書館等において、著作物を複写する場合に、著作権を制限し、著作者の承諾を受けることなく複写できる規定です。

② 著作権法第31条

図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の_____の複製を一人につき_____提供することができます。1冊丸ごとコピーしたり、何部もコピーしたりできません。

③ 複写対象資料について

図書館に設置したコピー機は、著作権法第31条による複写サービスを行う目的で設置されたもので、_____以外の資料を図書館のコピー機で複製するのは、目的外使用です。友人の図書やノートのコピーは図書館コピー機ではできません。

6. 図書館では複数の新聞を用意しています。複数の新聞を読み比べると、同じ記事でも新聞社によって捉え方が違うなど比較することができます。また、速報性や信頼性が高いため、レポート作成や研究材料にも利用できます。1階プラウジングコーナーの新聞記事の中から興味のあるものを1つ選び記入してください。

① 見出し:

② 新聞名・掲載日・ページ:

③ 興味を持った理由:

図1 図書館ガイダンス演習問題 (2008年度前期)

を引かれるところでもあり、内容に合わせて絞り込みやキーワードが適正かなどの助言をしている。

図1にあるようにこの演習問題は、図書・雑誌の検索、著作権、新聞記事についてと問題数が多いが学生は真剣に取り組んでいる。

ガイダンスは申し込みによる実施のため、すべての学生が受講できるわけではないが、薬学部は教員からの要請により新入生全員が毎年受講している。薬学部のうち医療栄養学科生には上記の内容で行うが、薬学科生・薬科学科生（4年制）のガイダンスは2コマを利用して行われ、その内の1コマを図書館が担当し、DVDの視聴とホームページの紹介および館内ツアーを実施している。引き続き2コマ目では図書館内のパソコンでの実習があり、進行および実習の演習問題作成は薬学部教員が担当し、図書館は検索のサポートを担当している。

表1の2007年度図書館ガイダンス学部別実施状況でもわかるように、ガイダンスは1年生から大学院生とあらゆる学年に実施してきた。教員の

表1 2007年度図書館ガイダンス学部別実施状況

所属	学年	コマ数	合計人数
経済学部	1	6	201
	2	3	
経済大学院		1	
現代政策学部	1	12	267
	2	5	
経営学部	1	10	519
	2	3	
	3, 4	1	
理学部	1	4	120
	3	1	
理学大学院		1	
薬学部	1	4	464
	3	1	
短期大学	1	4	90
	2	2	
個人参加		6	15
合計		64	1,676

要望により2・3年生でもOPACなどの基礎検索から教えて欲しいという要望や、1年生前期で基礎検索のガイダンス、後期ではレポート作成や研究発表のためのデータベース検索方法のガイダンスと、段階的に学べるように参加するゼミもあった。大学院生の中には他大学からの学生や社会人学生もいるため、ガイダンスを受けたことにより、データベースを使うようになったという学生も見受けられた。

2007年度ガイダンス実施アンケート³⁾では、ガイダンスが役に立ったかという質問には96.3%の学生が役に立ったという回答をしている。回答の理由の中には「これから図書館を利用するのに役立ちそう」「レポート（論文・卒論）作成に役立てたい」という学生が多いことがわかった。

3.2. 個人を対象にした講習会

上記ガイダンスはゼミごとの申し込みのため、当然受講しない学生もいるので、2007年度の秋には個人参加者を対象にした講習会も開催した。今までの経験からも参加者を集めることが難しいと考え、気軽に参加できるよう1回が30分で学べる内容にした。また、学生によって参加できる曜日も異なるので、目的別に3種類の内容を用意し、同じ内容を1週間ずつ3週にわたって実施する企画にした。3種類とは、①ホームページとOPACについて、②新聞記事の探し方について、③雑誌と雑誌記事検索についてであり、当日参加した学生の学部・学科・学年・要望に合わせた内容にアレンジし実施するものとした。広報面では図2のチラシを作成し、カウンターでの配布や学内への掲示、ホームページのお知らせへの掲載、教員へも配布した。また、館内放送で参加を呼びかけると共に、館内の学生に直接声をかけたことによって参加した学生もいた。チラシの効果もあってか、数人の教員からはゼミでの参加希望があり、実際にレポートの課題に対応する内容で実施することができた。個人での参加者を集めるのは大変であり、人数も多いとはいえないが、話をしていく中で図書館に対する色々な要望を聞くことができ少数ならではの良さを感じた。また、ガイダンスを受けたことがなかったという3・4年

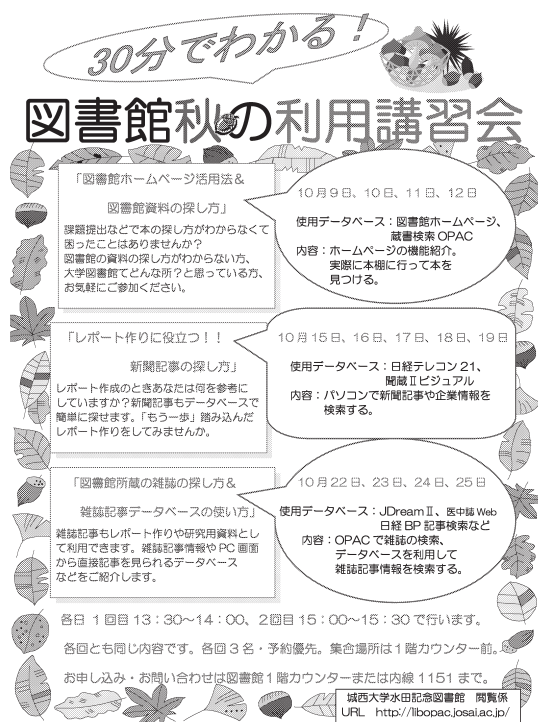


図2 利用講習会のチラシ (2007年度秋)

生の参加者もあり、これからも続けていく必要性を強く感じた。

3.3. データベース講習会

データベース講習会に関しては、先に述べたようにガイダンスの中で図書館員が利用方法を説明することもあるが、契約先の講師による講習会も開催している。授業に参加する形での講習会では、特別に参加する学生数のIDを契約先から発行してもらうことにより、全員でデータベースの利用方法を体験した。開催するにあたっては、講師側の日程や頻繁にある就職関係のイベント、薬学部生が参加する病院実習など学内外の行事をチェックする必要がある。また、参加者を集めるには、教員からの参加の呼びかけが効果的であるため、教員との連携や他部署とのつながりが大切である。

3.4. その他の利用者教育

講習会の形での利用者教育について述べてきたが、その他にも色々なケースがある。授業の途中で資料を探しに来るといったケースや、学生を引き

連れた教員から、急に今から研究発表のための資料検索の方法を教えてほしいと依頼されることもある。このような時にも対応できるように、普段からシラバスの内容や学部で発行しているゼミ紹介冊子の内容をよく読み、授業や教員の研究内容を把握しておくということが大切である。

その他では、授業に必要な資料の場所を授業中に案内する依頼や、雑誌記事検索の前の段階として直接雑誌を手に取り文献を探す授業でのサポート、読書感想文用の本の検索やテーマ探しなども依頼される。ゼミごとのガイダンスでも感じるのだが、パソコンの検索は慣れている学生でも、検索するテーマに関連するキーワードを見つけ出すことや、テーマのどんな点に着目するかを決めることは容易ではなく、検索の前に大きな壁となっているのが現状である。

その他にはツールを通しての利用者教育も効果的な手段である。当館のホームページでは利用案内、学外文献複写・現物貸借の申し込み方法、よくある質問などを掲載している。また、「図書館を活用する」というページでは、資料探しの道案内であるパスファインダーを掲載、利用講習会を紹介するページでは、ガイダンスで使用しているレポート作成のための資料探しのガイドや、データベースの検索方法などを紹介したマニュアル類も掲載している。

基本的なツールであるパンフレットは、3種類作成している。①「図書館利用案内」では貸出・返却やサービス、館内マップ、マナーに関する注意事項、②「資料の検索 情報検索」ではOPAC検索から資料の所蔵情報の見方や、文献入手支援として導入しているEBSCO社の「Link-Source」の案内、③「図書館間資料相互利用」では、他大学の訪問についての説明や文献複写・貸借の申し込み方法、参考文献の記述の見方を掲載している。これらのパンフレットは、新入生へのオリエンテーションや各種ガイダンスでも利用している。

図書館で定期的に発行している広報誌「図書館だより」では、データベースの利用方法の連載やNDCや請求記号、図書館用語の解説、文献の入手方法などを掲載している。「図書館だより」は

利用者や教職員への配布や学内への掲示もするが、レファレンスでの資料検索の説明時にも利用できる所以で役立っている。

4. 見直しと今後の展望

ガイダンスや講習会の回数を重ねることにより、図書館としての課題も見つかってきた。現在は希望する教員からの申し込みによる実施のため、学部・学科・学年により受講回数にかなりバラつきが生じている。2008年度の前期ではOPACなどの基礎的な資料検索ガイダンスを受けたゼミが、後期にレポート作成のためのガイダンスも受けるなど、段階を踏んで図書館を活用する方法を学んだゼミもあれば、まったく受けることなく進級してしまう学生もいる。また、1年生でガイダンスを受けたにもかかわらず、その後OPACでの検索やデータベースを利用していないという学生の利用相談も見受けられる。前述の2007年ガイダンスアンケートの結果では役に立ったという学生が多く見受けられたが、その後の利用につながっているかという点では、正式に調べていないので不明であるが、利用につながるガイダンスの見直しが必要と感じる。それには、検索だけでなくレポートや論文作成のためのテーマ選びや関連するキーワードの探し方など検索の前の段階から支援できる内容を考えてみる必要がある。2008年度後期ガイダンスではこの点を改善し、情報の信頼性やキーワードの見出し方に重点

を置き、著作権にも触れた内容を始めている。

ゼミ・授業でのガイダンスは、普段図書館を利用していない学生への図書館アピールのチャンスでもあり、満足感がその後の図書館利用に大きく影響する。勉強をするところ、本を借りるだけのところという意識を変えてもらうためにも、内容をよく吟味し参加者が得をしたと思えるものにしていきたい。一般開放による学外者の利用も増えてきているので、一般利用者でも参加できるような企画も、将来的には考えていきたいと思っている。図書館としての利用者教育への意識の向上とともに、ガイダンスや講習会を企画・進行する担当者のスキルアップも必要なので、研修への参加や他大学ガイダンスも参考にして発展させていきたい。

引用文献

- 1) 「図書館サービス向上のためのアンケート」調査結果報告書. (オンライン), 入手先 <<http://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics/riyousha/enquete/riyousha2007.pdf>>, (参照 2008-10-20).
- 2) 日本図書館協会. 情報の達人. 東京, 紀伊國屋書店, 2007. (DVD), (第1巻 ISBN 978-4-86271-051-2, 第2巻 ISBN 978-4-86271-052-9, 第3巻 ISBN 978-4-86271-053-6)
- 3) 2007年度図書館ガイダンスアンケート結果報告. (オンライン), 入手先 <http://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics/guidance/enquete/result_report2007.htm>, (参照 2008-10-20).

(原稿受付: 2008.10.31)